

学校便り 7月号

令和8年7月1日 発行

和歌山市立岡崎小学校

学校長 西岡美也子

校庭には子どもたちの植えた、朝顔、野菜、ホウセンカが元気に育っています。早いもので7月となりました。子どもたちは1学期のまとめをすべく頑張っています。

さて、6月15日に3年2組で道徳の研究授業を行いました。「どんどん橋のできごと」というお話を学習しました。

【どんどん橋のできごと】あらすじ

下校途中に川があり、その川には「どんどん橋」という橋がかかっている。僕たちは帰り道に棒切れや草を川の渦に流して遊んでいた。そんなことを何回かしているうち「かさをいれてみよう。」ということになった。何人かが、川にかさをいれてみると、かさは浮き上げてきた。正君も誘われた。「正くんはゆうきがないんだな。」という発言もあったが、正君は川にかさを入れることを断った。僕はやるかどうか迷ったが、やると決めて、かさを渦の中に入れた。すると、かさを入れたとたん、バリバリと大きな音がし、かさをすくいあげると、かさはほねがぼろぼろになってしまっていた。みんながぼくをなぐさめてくれたが、ぼくはなんとも言えない気持ちで家に帰った。夜になっても、夕ご飯がおいしく食べられなかった。



子どもたちは、「成功した子は、たまたま成功しただけ。いつも成功するとは限らない。」「一度やってみたかったから入れたと思う。」「僕もいけるとちがうかなと思った。」「友達やからやってみようと思った。」「勇気がないって言われたから、やったと思う。」子どもたちは自分の経験から、多面的に考え、ぼくが傘を入れた理由を考えていました。「やらないためにどうすればよかった？」の教師の問いかけに「ちゃんと断る。」「僕らが先に行くとか言ったら、うまく断れたかも。」「自分が嫌なことは人にやったらあかん。」「心のブレーキが大事や。」等、それぞれに解決策を模索していました。子どもたちの生活場面では様々なことが起こっています。自分たちで解決する力をつけてほしいと、岡崎小学校では、道徳の研究を進めています。

交通事故にご注意ください。

右図の赤丸の箇所、危険な横断をしているとの情報が何件か入っています。この道には、横断歩道や信号がなく、自転車道があるだけです。交通量が多く、小学生が横断することは危険なため、たびたび学級で指導をし、教員がその道で直接指導したこともありました。しかし、なかなか児童の横断が減らないのが現状です。ご家庭でも、ご指導いただきますよう、よろしくお願いいたします。

